

恵那市笠周地域振興計画（原案）

恵那市

I N D E X

1. 計画の目的
2. 計画の位置付け
3. 笠周地域の概況
4. 計画推進の基本的な考え方
5. 笠周地域活性化戦略
6. 分野別計画
7. 今後の推進体制

資料編

- 恵那市笠周地域振興計画策定委員会への諮問書
- 恵那市笠周地域振興計画策定委員会の答申書
- 恵那市笠周地域振興計画策定委員会名簿
- 恵那市笠周地域振興計画策定経過

ごあいさつ

平成 25 年 12 月

恵那市長
可知 義明



1. 計画の目的

恵那市では、平成16年の市町村合併後、新市まちづくり計画やその理念を引継いだ総合計画に基づいて新市の基盤づくりを進めてきました。また、市内各地域の振興については、合併特例債や過疎債、社会資本整備総合交付金などの財源を有効活用し、まちづくりを進めてきました。

しかしながら、地域別に見ると市の北部に位置する笠周地域（笠置町、中野方町、飯地町）については、少子高齢化や若者の流出に伴う人口減少など過疎化の問題を抱えているにもかかわらず、地域の課題解決に向けた投資が十分にされてこなかったところです。

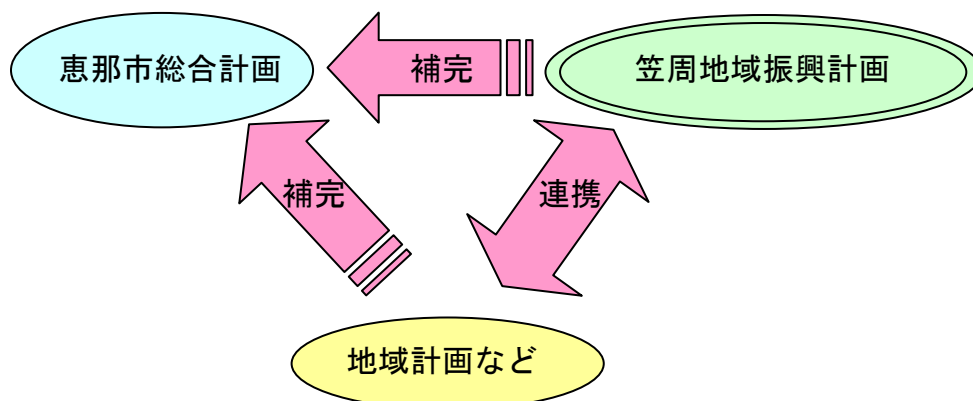
そこで、笠周地域の課題解決による地域振興と地域間の均衡ある発展を目的に笠周地域振興計画を策定し、計画的な事業推進を図ることとします。

2. 計画の位置付け

(1) 恵那市総合計画・地域計画との関わり

本計画は、恵那市総合計画の補完的役割と位置付け、笠周地域の振興を具体的に推進するため、市民と行政の協働という形態を踏まえた計画とします。また、より効果的に計画を推進していくため、地区別の地域計画などとの連携を図ります。

本計画の事業を推進するに当たり、事業効果の向上を図るため必要な事業については、総合計画の実施計画に位置付けて、地域振興策を推進します。また、平成28年度以降の事業については、次期総合計画に反映させて進行管理を行っていきます。



(2) 計画の期間

本計画の期間は、平成 26 年度から平成 31 年度までの 6 年間とします。

(3) 計画対象地域

本計画の対象地域は、過疎地域自立促進特別措置法第 32 条で定められている過疎地域の人口要件に該当する笠置町、中野方町、飯地町の笠置山周辺 3 町を笠周地域とします。



■ 地区別面積

単位：k m²

	笠置町	中野方町	飯地町	笠周合計	恵那市全体
面積	25.54	23.64	19.27	68.45	504.19
構成比	5.07	4.69	3.83	13.59	100.00

3. 笠置地域の概況

(1) 笠置町の現況

笠置町は、市の北西部木曾川のほとりに位置し、東部には木曾川水系で最初に造られた大井ダム・西部には紅葉が水面に映える笠置ダムがあり、豊かな自然環境に恵まれています。



笠置山の大自然の中で森林、岩石などの資源に恵まれています。天然の岩石を利用した「ボルダリング」でまちの活性化を図ろうと、数々のイベントを企画し、全国各地からクライマーが集まり、好評を博しています。

また、ユズの産地でもあり、特産品の開発に力を入れています。

(2) 中野方町の現況

中野方町は市の北部、笠置山のふもとに位置し、豊かな自然に恵まれています。なかでも、坂折地区の棚田は、農林水産省の「日本の棚田百選」に選ばれています。棚田コンサートや、炭焼き塾、写真コンテスト、ブランド米の生産など、棚田を中心とした里山文化の普及活動が全国から注目されています。



また、ボランティアが支える移送サービス「おきもり」は、みんなで支えあう文化を今に伝えながら、地域を挙げて「まめ」で元気に暮らせるまちづくりに取り組んでいます。

(3) 飯地町の現況

飯地町は市の北西部にあり、平均的な標高が 600 メートルほどの高原エリア

です。眼下に木曾川を臨み、鮮やかなV字谷と、笠置・丸山の二つのダムは大変美しく、周囲には文化財に指定されている数々の史跡があります。昭和29年建造の旧飯地事務所を「民俗資料館」として活用しています。また、芝居小屋「五毛座」は、地歌舞伎などの古くから伝わる貴重な文化遺産の保存とともに、地区内外の見物客との交流の場として活用されています。



平成16年度に、NPO法人「まんさく」を立ち上げ、高齢化を迎える中で高齢者が気軽に利用できる認知症予防などの各種活動を展開しています。また、高齢者等の移動手段の一つとして平成24年11月より移送サービスの試行運行を始め、平成25年4月より本格運行しています。

(4) 笠周地域の課題

笠周地域は、笠置山や秋葉山に代表される広大な森林とその裾野を流れる清らかな木曾川や中野方川など、自然環境や地域資源に恵まれており、各地域における暮らしも、これまでの歴史・文化などから育まれた特色のある風土が息づいています。

しかし、全国的な課題である少子高齢化の問題は、本市においても例外ではなく、定住支援や子育て支援、高齢者福祉の取り組みを推進しているものの、今後もますます進行することが予想されます。特に笠周地域では、戦後からの高度経済成長期を通じて、就労形態の変化や都市部への人口移動に伴い、少子高齢化、人口減少が進んでいます。このため、農林業の後継者不足による山林・田畑の荒廃化、交通弱者の増加、地域コミュニティの崩壊などが危惧されています。

観光においては、笠置山のペトログラフやヒカリゴケ、望郷の森、ひとつばたご、甌穴、笠置峡、坂折棚田、黒瀬街道、飯地高原など、天然記念物や史跡に恵まれていますが、資源を十分に活かしきれておらず、観光のPRや拠点と

なる施設の整備が必要とされています。

産業振興においては、製造業事業所数、商業事業所数の推移をみると、どちらも減少しており、既存の企業の保護と新しい産業の構築が求められています。グリーンピア恵那跡地を利用した栗園造成による産業振興や農産物の合同出荷などによる雇用の場の創出と産業の活性化、観光客の増加が必要とされています。

生活基盤においては、インフラの整備が遅れており、幹線道路が災害などで交通不能となった場合、陸の孤島となる可能性があります。防災、緊急体制、観光、文化活動など、住民の生活全てにおいて、幹線道路のバイパス整備が求められています。

福祉においては、少子高齢化に伴う高齢者世帯や独居世帯の増加により、高齢者が安心して地域で生活するための支援体制や介護施設の誘致が求められています。

■人口の推移

単位：人

	H2年	H7年	H12年	H17年	H22年
笠置町	1,762	1,682	1,573	1,491	1,366
中野方町	2,148	2,021	1,895	1,777	1,689
飯地町	1,017	953	858	773	733
合計	4,927	4,656	4,326	4,041	3,788

資料：国勢調査

■人口の推移（推計）

単位：人

	H27年	H32年	H37年	H42年	H42-H22
笠置町	1,340	1,250	1,150	1,060	-306
中野方町	1,580	1,480	1,370	1,260	-429
飯地町	670	620	570	520	-213
合計	3,590	3,350	3,090	2,840	-948

資料：平成20年度人口推計調査

■高齢化率の推移

単位：%

	H2年	H7年	H12年	H17年	H22年
笠置町	21.3	26.8	30.0	33.1	35.7
中野方町	19.3	24.0	28.2	30.7	34.0
飯地町	21.8	26.4	31.6	35.3	38.7
合計	20.5	25.5	29.5	32.5	35.5

資料：国勢調査

■ 高齢化率の推移（推計）

単位：％

	H27年	H32年	H37年	H42年	H42-H22
笠置町	40.5	43.9	46.7	47.2	11.5
中野方町	37.6	42.1	43.6	45.3	11.3
飯地町	41.6	46.1	46.0	46.3	7.6
合計	39.5	43.4	45.2	46.2	10.7

資料：平成20年度人口推計調査

■ 世帯の推移

単位：世帯

	H2年	H7年	H12年	H17年	H22年
笠置町	418	414	413	421	416
中野方町	491	480	478	474	477
飯地町	243	236	233	216	218
合計	1,152	1,130	1,124	1,111	1,111

資料：国勢調査

■ 製造業事業所数の推移

	H15年	H16年	H18年	H20年	H22年
笠置町	3	1	1	2	1
中野方町	16	13	10	12	9
飯地町	4	4	4	4	4
合計	23	18	15	18	14

資料：工業統計調査

■ 商業事業所数の推移

	H6年	H9年	H11年	H14年	H19年
笠置町	9	7	12	10	11
中野方町	23	21	21	17	18
飯地町	17	16	14	13	9
合計	49	44	47	40	38

資料：商業統計調査

■ 農家数の推移

	H2年	H7年	H12年	H17年	H22年
笠置町	312	299	181	146	134
中野方町	315	302	192	138	134
飯地町	165	150	72	57	57
合計	792	751	445	341	325

資料：農林業センサス

4. 計画推進の基本的な考え方

(1) 地域振興の視点

豊かな自然や文化などの地域資源を活用した特産品の開発や森林整備、観光地としての魅力の向上などにより、雇用の場の創出や交流人口の増加など、地域経済の活性化を目指します。また、住民自らが参画し、行政と住民が協働で事業を進めることにより、地域の実情に合った地域振興を進めます。

(2) 生活環境向上の視点

人口減少・少子高齢化が進行する現状を踏まえ、高齢者の安全・安心の確保に努めるとともに、若者が魅力を感じる快適な生活環境づくりを進めます。

(3) 持続性の視点

施設整備に当たっては、初期建設費とともに維持管理経費についても精査し、長期的・効率的な持続可能性について検討します。



5. 笠周地域活性化戦略

～美しい山「笠置山」でつながる地域振興～

地域の課題を解決し、振興を図るためには、今ある地域の魅力を磨き上げるとともに、それぞれの魅力を有機的に結びつけ、笠周地域全体の魅力にブラッシュアップすることが不可欠です。

笠周地域の中心には豊かな自然の宝庫である「笠置山」があり、笠置山の魅力と裾野に広がる里山の魅力を最大限に引き出すことにより、笠周地域全体の地域振興を目指します。

まず、笠置山の入口である平成 27 年開通予定の新東雲橋付近に道の駅を設置し、観光の拠点とするとともに、不動の滝農産物直売所と連携して地元の物産品を販売することにより地域経済を活性化します。次に案内看板の設置や山頂の物見岩の安全対策、笠置峡の整備、裾野に広がる坂折棚田のなごみの家を体験交流施設として整備することにより、観光地としての魅力を引き出します。また、国内屈指のボルダリングエリアの利用者や自然愛好家、観光客に対する休憩、宿泊施設として、飯地高原自然テント村の整備を行います。さらに、グリーンピア恵那跡地に整備している栗園について、笠周地域全体で取り組むことにより、経営の安定と観光農園化、雇用の場の創出を目指します。

これらの取り組みにより魅力が高まった地域資源をつなぎ、相乗的な効果を得るため、道路ネットワークの整備を行います。特に新東雲橋から笠置コミュニティセンターを経由して栗園までをつなぐ北ルートと、栗園と飯地高原自然テント村など「高原のまち」をつなぐ市道飯地中野方線と勢井後橋の整備を行い、地域資源を周遊できるようにします。また、地域振興だけでなく、災害時のバイパスや生活道路、地域間道路として利用することにより、地域住民の生活環境の向上を目指します。

さらに、これらの振興策を強力に推進し、活性化を図るためには、笠周地域を構成する笠置町、中野方町、飯地町が一体となって事業実施に取り組むことが重要で、本計画の推進を契機として、三町連合笠周地域のさらなる連携強化を図ります。

6. 分野別計画

(1) 観光

観光資源を再発見し、観光地としての魅力を高めます。また、観光地を繋ぐ道路の整備と拠点となる駐車場（道の駅）整備や施設の改修を行い、観光ルートを構築することにより、入り込み客数を増加させます。

笠周地域振興計画による取り組み

- 笠周地域観光マップ作成
- 笠置山整備事業
- 棚田のなごみの家（体験交流施設）の整備
- 飯地高原自然テント村の整備
- 3町統一の行事予定表の作成
- 笠置峡親水公園の整備

その他の取り組み

- ・笠置ひとつばたご自生地保存整備事業
- ・重要文化的景観保護推進事業（坂折棚田）



(2) 産業振興

グリーンピア恵那跡地の栗園の整備により、産業振興を図ります。また、栗園を観光農園化することにより観光客の増加を目指します。

3町の農産物を不動滝販売所へ集荷する仕組みを構築し、軌道に乗れば新東雲橋の道の駅に出荷できるよう地域経済の活性化を目指します。

笠周地域振興計画による取り組み

- 栗園観光に伴う公衆トイレの設置事業
- グリーンピア恵那跡地観光農園整備運営事業
- グリーンピア恵那跡地企業・研究所誘致事業
- 新東雲橋付近道の駅整備事業
- 軽トラ市の開催（運営主団体の創設）
- 農産物直売所整備事業（県営中山間地域総合整備事業）
- 農産物の笠周地域合同出荷
- 笠周地域ウェブサイト作成事業
- 農産物等のネット販売事業
- ふるさと活性化協力隊員の配置
- アドバイザー派遣事業（NPO、地縁団体設立）

その他の取り組み

- ・林地残材有効利用事業
- ・間伐のための作業路開設補助事業



(3) 生活基盤（道路・福祉など）

笠周地域は、幹線道路は整備されていますが、主となる道路が1つであるため、災害時に利用できるバイパス道路整備を進めます。また、各地域の観光地を周遊するための道路整備を進めます。

地域福祉の向上を目指すため、老人介護施設の建設誘致を行います。また、ドクターカーやヘリポートの整備を行い、緊急時に迅速な対応ができるようにします。

笠周地域振興計画による取り組み

- 勢井後橋の整備
- 市道飯地中野方線の整備
- 川向林道の整備
- 市道笠置町 37 号線の整備
- 笠置山林道の整備
- 寺洞林道と笠置山林道の道路整備
- 市道寺田石山線の道路整備
- 市道笠置線の整備
- 市道岩波奥屋線の整備
- 県道中野方七宗線、県道毛呂窪姫栗線、県道恵那八百津線の改良要望
- 県道恵那白川線（不動滝～加須里）バイパス整備の要望
- 老人介護支援施設の建設誘致

その他の取り組み

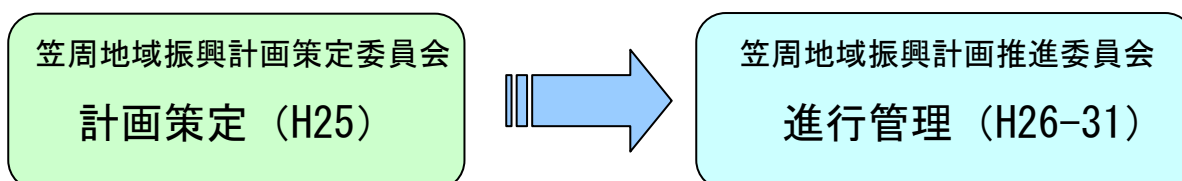
- ・ 地域住宅交付金事業
- ・ ヘリポート整備事業
- ・ (仮) ドクターカー運営事業
- ・ 消防団器具庫改修整備事業
- ・ 消防水利整備事業 (防火水槽・消火栓)
- ・ 買い物支援事業
- ・ 中野方保育園の改築事業
- ・ 飯地保育園の大規模改修事業
- ・ 林道大沢線の開設
- ・ 市道田沢松葉線の整備



7. 今後の推進体制

次年度からは笠周地域振興計画策定委員会を笠周地域振興計画推進委員会と改め、事業の進捗状況を進行管理します。

計画の中には事業を実施するための実行組織を立ち上げる必要があります。計画策定後の取り組みが重要となります。また、計画期間が6年間と長いため、その間に事業の必要性や重要度が変わる可能性があります。事業の実施前に事業内容の詳細について地域と市が相談し、実行組織の組織状況や事業の必要性と重要度を再確認する場として、笠周地域振興計画推進委員会を設置します。



資料編

企ま第 2238 号
平成 25 年 5 月 8 日

笠周地域振興計画策定委員会委員長 様

恵那市長 可 知 義 明

笠周地域振興計画(案)について(諮問)

恵那市では、平成 16 年の市町村合併後、新市まちづくり計画やその理念を引継いだ総合計画に基づいて新市の基盤づくりを進めてきました。また、市の北部に位置する笠周地域(笠置町・中野方町・飯地町)は、過疎地域の指定を受けている地域と同じ条件不利地域で、少子高齢化に伴う人口減少などの過疎化の問題を抱えており、地域の課題解決に向けた取り組みが必要となっています。

そこで、笠周地域の課題解決に向けた地域振興と地域間の均衡ある発展を目的にした笠周地域振興計画(案)について諮問します。

答申文

笠周地域振興計画策定委員会委員名簿

番号	役職名等	氏名
1	笠置地域協議会会長／笠置町自治連合会長	田中 征衛
2	笠置町選出委員	樋田 一成
3	笠置町選出委員	林 昭夫
4	笠置町選出委員	鈴村 重樹
5	笠置町選出委員	樋田 芳久
6	中野方地域協議会会長／中野方町自治連合会長	神尾 寛和
7	中野方町選出委員	井戸 茂利夫
8	中野方町選出委員	池戸 克行
9	中野方町選出委員	小池 重睦
10	中野方町選出委員	鈴村 辰春
11	飯地地域協議会会長	平井 一兵
12	飯地町自治連合会長	柘植 渥美
13	飯地町選出委員	平井 茂
14	飯地町選出委員	柘植 孝彦
15	飯地町選出委員	後藤 次哉
事務局	企画部長	小栗 悟
	企画部次長（企画課長）	千藤 秀明
	まちづくり推進課長	堀 正道
	笠置振興事務所長	鷹見 利夫
	中野方振興事務所長	秋山 茂登雄
	飯地振興事務所長	樋田 美富
	まちづくり推進課係長	鈴村 幸宣
	企画課経営管理係長	服藤 知晃
	企画課	橋本 孝純
	〃	梶村 一之

任期：平成25年5月8日～平成26年3月31日

* 1町5名（地域協議会会長及び自治連合会長に選出委員3名）

計畫策定經過

恵那市笠周地域振興計画

平成 25 年 12 月発行

〒509-7292

岐阜県恵那市長島町正家一丁目 1 番地 1

TEL0573-26-2111 FAX0573-25-6150

<http://www.city.ena.lg.jp>

笠周地域振興計画3町合同事業

テーマ	施策	策定委員会(部会)からの意見等	事業名(内容)	種別	事業主体			実施年度						事業費(合計)	国・県	起債	一般財源	備考(検討事項等)		
					整備	運営		H26	H27	H28	H29	H30	H31							
観光ルート開発・整備		天然記念物等の活用(地域の観光資源ブラッシュアップ)・笠置のヒズ穴、ヒツバタゴ、飯地の前平観音、中野方のヒカリゴケ、黒瀬街道など天然記念物などをブラッシュアップし、3町の魅力を再発見することにより、笠周地域の魅力の向上を目指す。)・観光施設の安全対策を取る。(物見岩に手すりをつける。)・案内看板を充実させる。(案内看板の設置)	観光マップ作成事業(現在作成中の3町合同の観光マップに反映)	ソフト	地域	地域	整備補助	○	○	○	○	○	○	0	0	0	0	観光協会への補助対応。		
			笠置山整備事業	ハード	市	地域	地元管理	3,000	3,000	2,000	2,000	2,000	2,000	14,000	0	0	14,000	誘導サイン、案内看板、物見岩周辺整備、散策コース・トレイルランニングコース・自転車トライアルコース整備など		
			笠置峡親水公園の整備	ハード	市	地域	指定管理						30,000	30,000		28,500	1,500	親水公園整備。(維持管理費は地元負担)		
観光	観光施設の整備	棚田の観光客受入れ設備の充実 ・棚田のなごみの家の整備。休憩所、シャワー。棚田オーナーはリピーターで固定。手足の洗い場等休憩場が必要。収益をあげて維持することが必要。冬場の活用も課題。 テント村施設(宿泊)の充実 ・テント村の整備棚田で農業体験してテント村(バンガロー)へ泊まって笠置観光をするような形が望ましい。・ポルタリングの宿泊所にテント村を活用する。山小屋・シャワーがあつて大勢泊まることできる。 ・コテージを整備する。	棚田のなごみの家(体験交流施設)の整備	ハード	市	地域	指定管理		40,000					40,000	20,000	19,000	1,000	体験交流施設として整備(維持管理費は地元負担)体験交流のソフト事業を展開することが必須。		
			テント村の整備(コテージの改修・増築)	ハード	地域	地域	整備補助	6,400	6,400							12,800	0	0	12,800	H26コテージ5棟 H27コテージ5棟
			3町統一の行事予定表の作成	ソフト	地域	地域	整備補助	○	○	○	○	○	○						0	地域、振興事務所、ふるさと活性化協力隊員が協働で取り組む。
地域の祭りを活かした一体的な観光開発		交流人口を増やすために、地域の祭りの調整を行う。3町の物語を作る。 ・南北朝時代からの祭りを活かした3町の物語りをつくり、誘客を図る。祭りの時期を調整し、一体的に誘客できるようにする。																		
			栗園観光に伴う公衆トイレの設置 ・観光栗園に展望台とトイレの設置。女性が困る。ただ電気はあるが水が問題。 ・リースか整備か検討が必要。	ハード	地域	地域	整備補助						5,000	5,000	0	4,700	300	旧グリーンピア内という限られた空間を利用するため、観光栗園・その付帯施設等を維持管理・経営していただける組織がしっかりしていればこの事業化はできる。		
			栗園振興に対する3町連携 ・栗園は第6次産業への展開も見込める。雇用も見込める行政、農協、地元との役割分担の明確化が必要。菓子店と栗園との連携が必要。観光の目玉は「栗拾い」。 ・作業用のレール、運搬車、作業車の整備。	ハード	地域	地域	整備補助								30,000	30,000	0	0	30,000	〃
グリーンピア跡地の有効活用		企業、研究所の誘致 ・先端の研究所、企業、学校を誘致。直下型地震をサポートする施設も働きかける。リニア開通を見据えて。	グリーンピア跡地観光農園整備運営事業	ハード	地域	地域	整備補助													
			グリーンピア跡地企業・研究所誘致事業	ソフト	市	市	誘致	○	○	○	○	○	○						0	グリーンピア跡地は山林面積が多く、企業誘致適地が少ないと思われる。現在、市内の企業誘致適地調査を実施する方向で調整している。この調査で笠周地域に企業誘致適地があれば積極的に誘致を進めたい。
			農産物の3町合同出荷	ソフト	地域	地域	運営支援	○	○	○	○	○	○						0	地域、振興事務所、ふるさと活性化協力隊員が協働で取り組む。
産業振興	地域資源のインターネット発信	ホームページの作成(3町の観光等) ・3町合同でのネット販売。内容のあるホームページの作成、随時更新する仕組みを作る。フェイスブックの立ち上げも。ネット専任の人間の確保。 農産物等のネット販売(不動産を起点に) ・三町合同でのネット販売。内容のあるホームページの作成、随時更新する仕組みを作る。フェイスブックの立ち上げも。ネット専任の人間の確保。	笠周地域ウェブサイト作成事業	ソフト	地域	地域	運営支援	○	○	○	○	○	○					0	地域、振興事務所、ふるさと活性化協力隊員が協働で取り組む。	
			農産物等のネット販売事業	ソフト	地域	地域	運営支援	○	○	○	○	○	○						0	地域、振興事務所、ふるさと活性化協力隊員が協働で取り組む。
			ふるさと活性化協力隊員の配置	ソフト	市	地域	運営支援	○	○	○									0	中野方町H26まで 飯地、笠置H26～28
道の駅の整備	NPO、地縁団体の設立	アドバイザーなどの活用によりNPOなどを立ち上げ、地域活性化に繋げる。	アドバイザー派遣事業	ソフト	市	地域	運営支援	○	○	○	○	○	○					0		
			新東雲橋付近道の駅整備事業(駐車場整備)	ハード	市	地域	指定管理			200,000	130,000			330,000	0	313,500	16,500	道の駅の整備。(維持管理費は地元負担)		
			軽トラ市の開催(運営主団体の創設)	ソフト	地域	地域	運営支援	○	○	○	○	○	○						0	地域、振興事務所、ふるさと活性化協力隊員が協働で取り組む。
道の駅の整備		道の駅は要になるグループが必要。道の駅の準備には構想等準備で3年かかる。通行量の問題もある。軽トラ市やテント市から始める方法もある。	農産物販売所の建設	ハード	県	地域	指定管理					55,000(8,250)	55,000(8,250)	110,000(16,500)	93,500	15,600	900	県営中山間地域総合整備事業として県と調整する。(らっせいみさとを参考)(維持管理費は地元負担)地元運営ができるか十分な検討が必要。		

笠周地域振興計画3町合同事業

テーマ	施策	策定委員会(部会)からの意見等	事業名(内容)	種別	事業主体			実施年度						事業費(合計)	国・県	起債	一般財源	備考(検討事項等)	
					整備	運営		H26	H27	H28	H29	H30	H31						
生活基盤(道路・福祉など)	笠周北ルート の道路整備	飯中線・勢井後橋の整備(県営一般農道整備業) ・負担区分 国50%、県25%、市25% ・予定工期はH28-H37	飯中線・勢井後橋の整備 地図①・②	ハード	県	市	(道路等)	6,000		○	○	○	○				0	・H26に市単独で調査設計を行い、県と整備内容を調整する。	
			川向林道の整備 地図③	ハード	市	市	(道路等)		18,000	13,000	13,000				44,000	0	41,800	2,200	局部改良6カ所 12,000千円 測量設計費5,000千円 舗装修繕L=2,000m A=9,000㎡ 3,000円/㎡ 39,000千円
			旧グリーンピア入口～笠置寺洞林道の整備 ・飯地から中野方、笠置、新東雲橋とつなげるため、飯中線からグリーンピア跡地の道、笠置山林道、途中、道路を新設して寺洞林道、笠置農道の各道路の改良及び笠置コミュニティから笠置事務所への道を2車線に改良を行い、県道が不通時の迂回路やポルダリング、栗園へのアクセス道としたい。	市道笠置町37号線の整備 地図④	ハード	市	市	(道路等)	13,500	21,500	15,000				50,000	27,500	21,300	1,200	5m未満を5mへ拡幅 L=710m
				笠置山林道の整備 地図⑤	ハード	市	市	(道路等)		5,000	5,000	5,000			15,000	0	14,200	800	局部改良6カ所 15,000千円
				寺洞林道と笠置山林道を繋ぐ林道の新設 地図⑥	ハード	市	市	(道路等)		5,000	5,000	5,000			15,000	0	14,200	800	新設 高低差250m 縦断勾配10% L=2,500m 300千円/m 7億5千万円 局部改良5カ所 15,000千円
				市道寺田石山線の道路整備 地図⑦	ハード	市	市	(道路等)			10,000	12,000	36,000	42,000	100,000	55,000	42,700	2,300	基点部 L=170mと橋梁部20mは、歩道を車道として2車線改良。路肩にカラー舗装。その他は2車線改良 L=700m 歩道なし190mの是非について要検討。
	笠置農道～寺田石山線～新東雲橋接道 ・同上	市道笠置線の整備 地図⑨	ハード	県	市	(道路等)			10,000 (2,500)	37,000 (9,250)	85,000 (21,250)	88,000 (22,000)	220,000 (55,000)	165,000	52,200	2,800	線形・視距の改良 2工区 L=950m		
		市道岩波奥屋線 地図⑩	ハード	市	市	(道路等)		9,000	21,000	25,000	25,000	30,000	110,000	60,500	47,000	2,500	5mに拡幅 L=550m 4m改良済み区間は不施工		
	県道の道路改良促進	402号・409号・412号の改良 ・棚田に上がる県道402号について、入り口が狭く、大型バスが上がれない。県道になるので県への要望をしていきたい。県道412号は大雨になると通行止めになるため、どんな時でも通れる道の整備。	県道中野方七宗線(402)、県道毛呂窪姫栗線(409)、県道恵那八百津線(412)の改良要望	ハード	県	県	要望											0	
			66号(不動滝～加須里)バイパスの整備 ・主要地方道恵那白川線の加須里から不動の滝あたりまでにおいて、大雨などで通行止めになった場合、迂回路がないのでバイパスがあるといい。	66号(不動滝～加須里)バイパス整備の要望	ハード	県	県	要望											
老人介護支援施設の建設誘致	介護予防 ・飯地から街中への介護施設へは行きづらいので、介護施設の設置を中野方保育園の新設に伴い旧保育園に開放型の介護施設を設置したい。民間介護施設の誘致をしたい。毛呂窪小学校の跡地について、南側の土地であり日当たりがいいので、介護施設等跡地利用をしたい。	老人介護支援施設の建設誘致	ソフト	市	市	誘致	○											0	
合計							28,900	107,900	281,000	229,000	208,000	277,000	1,125,800	421,500	614,700	89,600			

● 振興計画には計上しない事業

観光	観光施設の整備	ビジターセンターの改善 ・ビジターセンターを宿泊可能施設として整備する。	ビジターセンターの利活用(宿泊施設)	ハード														地域の集会施設として建設しているため、地元が宿泊施設として経営するならば本省協議も可能だが、ある特定団体・業者が宿泊施設を運営するのであれば補助目的から外れてしまう。まず、どこが経営するかが一番の懸案。
生活基盤(道路・福祉など)	笠周北ルート の道路整備	笠置農道～寺田石山線～新東雲橋接道	市道榎杭線の道路整備 地図⑧	ハード														新東雲橋から市道笠置線まで2車線で繋がっているため、実施は難しい。
		観光関連道路	県道七宗線から市道飯地中野方線につなぐ道路の新設 地図⑩	ハード														勾配がありすぎる。費用対効果から判断して実施は難しい。
生活基盤(道路・福祉など)	総合防災福祉救急センターの整備	救急車の配置 ・救急車が着くまでに30分から40分かかる。規制等あると思うが地元消防団員も救急車を運転しても良いと言っている。救急車のみ配置し、地元の人間が運転することはできないか。また救急車と救急用の職員の配置ができないか。また救急車が救急車を運転して急患を病院に搬送してもいいのではないかと。笠置コミュニティセンターを複合施設として利用してはどうか。 ・北分署は市長は作らないとはっきり議会でも発言しているが、地域としては必要である。できないと言わず、手を考えてほしい。	総合防災福祉救急センターの整備	ハード														・北分署の建設は計画しておりません。 ・地元の消防団員等での救急搬送につきましても、救急隊員としての資格(消防法施行令第44条、同規則第51条)が必要です。 ・地元の消防団等で搬送可能な傷病者としては、地元の診療所でも処置可能な軽症者であり、自家用車等で搬送ができる範囲と考えます。意識喪失や大出血などの傷病者には、やはり救命士(国家資格)や救急隊員が適切な救命処置をして病院搬送することが必要不可欠です。 ・今後も「ドクターカー的運用」を検討するとともに、必要に応じて「ドクターヘリ」の積極的な利用で救命率の向上に務めます。

笠周地域振興計画地域事業

地域	施策(テーマ)	課題	効果	事業	内容(細事業)
笠置	笠置複合施設建設事業	笠置振興事務所すぐ裏には木曾川があり、大雨時にはかなり水かさが増し、大災害時の指令拠点としての機能発揮ができない立地条件です。事務所横の駐車場も1台、狭い会議室が1部屋しかなく事務に支障をきたし市民にとっても不便な施設となっています。	笠置振興事務所、笠置コミュニティセンター、地域包括支援及び健康づくり施設として統合することにより事務の一元化ができ、市民サービスに貢献できる。	笠置複合施設建設事業	・建物一式 A=750㎡ ・駐車場整備 A=600㎡ ・用地確保及び土地造成 A=1,000㎡ 恵那市内では、振興事務所とコミュニティセンターが同じ建物内にある事務所が多く、笠置町も市民サービス向上のため統合したい。また、地域包括支援及び健康づくりのための施設併用し活用したい。 事業主体 恵那市
笠置	笠置山まるごと美術館と美しい山・豊富な水整備事業	笠置山クライミング入山者は、平成24年度は約4,500人で年々増加していますが、国指定文化財ヒツツタゴ、望郷の森などの資源を生かした笠置山全体の周辺整備が課題となっている。	笠置山をまるごと整備することにより子どもから大人まで幅広く楽しむことができる環境整備が整い、観光客の増加と地元特産品の販売など地域経済の活性化に期待ができる。	望郷の森周辺整備事業 散策コース整備事業(森林浴・山野草・回想の森・芸術の森) トレイルランニングコース整備事業 マウンテンバイク・自転車トライアルコース整備事業 パラグライダー施設整備事業 宿泊施設・特産品販売所整備事業	・望郷の森周辺整備事業 駐車場整備、林道拡幅改良 笠置山クライミング入山者は、平成24年度は約4,500人で年々増加しており、子どもから大人まで幅広く楽しむことができる環境整備し観光客の増加を図る。 事業主体 恵那市 ・散策コース整備(森林浴・山野草・回想の森・芸術の森) L=3,500m ・トレイルランニングコース整備 L=3,500m ・マウンテンバイク・自転車トライアルコース整備 L=3,500m ・パラグライダー施設整備 ・宿泊施設・特産品販売所整備 管理棟改修一式等
笠置	笠置峡整備事業	桜の開花時期には多くの観光客が訪れますが、周辺にはトイレや駐車場がなく恵那北中学校周辺を利用することが多く観光地周辺整備が課題となっている。	木曾川と中野方川合流地点に河川公園として笠置峡を整備すれば中野方町と飯地町に訪れる観光客も増加が見込め、坂折棚田、笠置山クライミングなど地域の活性化を図ることができる。	笠置峡整備事業	・公園整備 一式 ・遊歩道整備 L=1,200 m ・駐車場整備 一式 ・木曾川と中野方川合流地点に河川公園として笠置峡を整備し、中野方町と飯地町に訪れる観光客の増加を図る。 事業主体 恵那市
笠置	県道恵那白川線 姫栗～河合歩道設置事業	笠置町内の姫栗橋から恵那北中学校までの約2.5kmの区間において歩道が未整備のため、通学する生徒、笠置郵便局、小規模多機能型めぐみなどの利用者や一般の通行人が多く、加えて車両の通行も頻繁なため交通事故がいつ起きてもおおしくない状況です。	地域住民が安心して生活できる環境の確保と笠周地域振興計画の実施による観光客の増加に対して快適な道路環境が提供できる。	県道恵那白川線 姫栗～河合歩道設置事業	・歩道 L=2,500m 笠置町内の姫栗橋から恵那北中学校までの約2.5kmの区間において歩道整備ができれば、通学する生徒、笠置郵便局、小規模多機能型めぐみなど利用者や一般の通行人の安全確保ができる。 事業主体 岐阜県
笠置	地籍調査事業の早期実施	笠置町において平成24年度末現在調査済み面積は、7.7km ² (19条5項を含む)で30.6%となっており、恵那市内では既に完了した町もあり土地境界を知る人が年々高齢化により弊害がでている。	新東雲橋及びりニア関連により土地境界に関する関心が非常に高く、公共事業等の推進を図ることができる。	地籍調査事業の早期実施	・調査面積 = 17.33 km ² ・土地境界が明確になるため、適正な課税と公共事業等時間短縮が行える。 事業主体 恵那市
笠置	地域見守り支援事業	笠置町は、昨年、一昨年だけでも4人の孤独死が発生しており、地域にとって切実な問題となっています。平成25年度において複合センサーによる見守りシステムの運用(15世帯対象)を開始予定。	地域の人々が地域の人を見守っていけるシステムを構築することにより、高齢者の社会的孤立を防ぎ、健康で生き生きとした人生を送れるようお互いに助け合い支え合う環境作りができる。	地域見守り支援事業	・見守りセンサー設置補助 対象者 独居老人世帯 ※ 参考 平成25年度 設置費用1世帯164,500円 ・見守り・笠置 運営費支援 地域の人々が地域の人を見守っていけるシステムができ、独居老人が安心して暮らせる環境づくりが行える。
中野方	棚田を生かした再生計画	現在棚田は稲作体験オーナー制度、田の神灯まつりなど、全国的に観光客が増加しつつあり、恵那市の棚田としての知名度も上がってきている。しかし、来訪者や稲作体験で作業された後に体を洗う施設や休憩場所が無い。また、イベントを行う場所や駐車場も無く集客が困難となっている。そのため交流施設及び駐車場の整備が早急に必要である。	イベントなど広く周知し、町内・町外を問わず、多くの人達に棚田を訪れてもらうことができる。また、イベントの計画がしやすい。多くの人が出入りできる拠点となる施設が出来ることにより、協力者やメンバーが増えてNPO法人恵那市坂折棚田保存会として安定した団体となることできる。	交流施設及び駐車場の整備	・体験交流施設の建設(指定管理者制度による) ・大型駐車場の整備
中野方	新中野方保育園建設後の旧園舎の活用	任意団体が活動していた「まめに暮らそまい会」が、町内の福祉団体の連携を図りながら福祉活動を担う平成24年4月よりNPO法人となり活動を開始した。現在は町内にある教員住宅を市より無償で貸与してもらっている。現在の拠点は事務局機能しか持つことが出来ないため、今後事業を拡大して展開していくためには現在の拠点では狭い。また、立地条件の悪いことから多くの人に気軽に寄ってもらうことはできない。	子供からお年寄りまで、誰もが安心して暮らせるまちとなることから、人口減少に歯止めがかかり、活気のあるまちとなる。また、お年寄りが元気になるため、他地域の手本となり恵那市全体の介護保険料の減額にも繋がる。	中野方保育園跡地利用	中野方町福祉センター(仮称)の設立の為に旧中野方保育園舎の改修。 ・宅老所の開設、学童クラブの充実、放課後クラブの開設 コミュニティカフェの開設。 みんなで支えあって暮らせる町に、笑顔が集うコミュニティの場を作ることを目的とした。 ・宅老所事業・学童クラブ事業・介護予防事業・生活支援事業 ・高齢者見守り事業・高齢者自立支援事業・育児サポート事業 ・外出支援事業 の活動拠点としたい。
中野方	まち活性化計画	災害時に対しての道路の改良や整備、救急体制の確立。人口減少に対して生活環境づくり。笠置山の栗園に対して管理運営の体制や地域資源を生かした特産品の開発など今後の課題は多いが、雇用の場の創出や観光地としての交流人口の拡大が見込めるため、各種機器の配備及び作業場等の設備の整備が必要。	地域の魅力を向上させることにより、まちが活性化して人口減少の対策となる。活気ある暮らしやすいまちとなる。	道路の改良 林道の新設 道路の整備 定住住宅の建設(提供) 消防北分署に代わる、救急対策	・飯中線の改良及び勢井後橋の県道との接続(三町協議会において合意済み) 飯中線の二車線化と同時に勢井後橋を現県道(68号線)の高さまでけた嵩上げし接続する。飯地町とのアクセスが格段に改善され両町にとってのメリットが大きい。観光ルートとしても飯地町の生活道路としても有効である。 ・寺久保林道と笠置山林道を繋ぐ林道の新設、及びその接続道の拡充(三町協議会において合意済み) 飯地町から飯中線、グリーンピアから笠置町を越えて新東雲橋に接続する(一部新設)道路が完成することにより、三町を面で結ぶ事となりその効果は計り知れない。観光面、生活道路として、災害時の迂回路としても活用が出来る。(三町と笠置町で東雲橋に接続することによりりニアにもアクセス出来る。) ・加須里地区の県道のバイパス設置 加須里地区は、険しい谷底を中野方川沿いに走り、両脇の山は少しの災害で崩落の危険が高い。従って不動滝より下、1から2キロの区間のバイパス道路が必要である。 ・3戸～4戸(戸建) 恵那市の施策として住宅の建設があり希望者には貸付という形で提供があるが、条件的に希望者が難しい(実質希望者なし)住宅を提供し何年か住めば持ち家になる、自分の物になる、というような制度を実施する。 ・各町救急車の配備 北分署の設置が非常に難しい状況の中、救急対応が必要である。例えば、各振興事務所に救急車一台を配備し、条件整備を行い各町で対応できるようにする。

地域	施策(テーマ)	課題	効果	事業	内容(細事業)
中野方				笠置山栗園の三町による事業	各種機器の配備及び作業場等の設備 ・栗の集荷場、選果場、及び選別機(サイズ別選果可能機) ・大型冷蔵庫(3m×2m×2m) 堆肥の攪拌施設 ・作業場の設営(加工・皮むき・商品加工) ・大型消毒機(ss)+チッパー(剪定材をチップにする機械) ・猪鹿無縁柵(B地区、C地区)(防犯を含め常設フェンスが良い) ・観光栗園に伴う管理棟の設置及びトイレ施設 ・20haの栗園を栽培するに当たり集荷、選別の施設が必要である。また観光栗園の運営に伴う各種施設が必要である。 ・トロツコ的な集荷施設
中野方				外部への発信整備	・観光(笠置山・棚田)、産業ほか空家情報等あらゆる情報の三町を一本化したウェブを立ち上げる。 情報化時代は今後ますます発展しパソコンによる情報取得等は更に重要性を増してくる。こうした状況に的確に対応できる人材の確保が必要である。(適した人材の雇用)
中野方				中野方グランド(旧中野方中学校)の水洗化	・グランドへの水道引き込み工事 ・トイレの水洗化 現在のグランドは市教育委員会管理で、トイレ、水道は山水を町管理で引いている。利用者は消防団、老人クラブ、町民が使用。天候により水が無くなりトイレが利用できなくなったり、配管の老朽化や、山水のため砂利が流れ詰まりが頻繁にあり、町費がかさんでいる状況である。グランドに付随する施設として水洗化をお願いしたい。また、管理は市でお願いしたい。
中野方				間伐推進のための作業道造成の補助制度の創設	・作業道1m当たり1500円 笠周地域、木の駅実行委員会では山づくり、地域づくりとして間伐に取り組んでいる。その中で、災害の元となる切捨て間伐材の搬出を行なっているが、その搬出においては大きな労力が必要となり、作業道があれば一段とその成果が上がってくる。この作業道の造成に対する補助制度を創設してほしい。作業道が半ば公道として利用出来る事により、付近の山づくりも進むものと期待できる。
中野方				整備済圃場の再整備	・整備済圃場を大規模区画とした再圃場整備 圃場整備を行った年が古く、区画が小さい。大型機械の搬入に支障をきたしている。区画を大きくすることにより、効率が良くなり作業の時間短縮にもなり、生産量の向上に努めることができる。
中野方				既存企業の支援対策	・新商品開発事業及びPR費用(活動費)の全額補助 町内にある恵那楽器は手作りで大量生産できる日本で唯一の弦楽器の製造工場である。しかし近年価格の安い輸入品などの影響で生産量が減少。会社の存続も厳しい状況になりつつある。恵那楽器だけではなく、そんな企業が新たな商品を開発することにより、生産受注の拡大につながり雇用の創出にも繋がる。
中野方				耕作放棄地の対策	・地元特産品の開発費用補助 ・管理費用の助成 笠周地域は高齢化率の高い地域で、荒れた農地が目立ってきている。農地を荒らさないための対策(特産品など)を検討し、管理運営する人達に人件費を支出し、農地を守る仕組みをつくる。
飯地	生活道路の早期整備	地域の生活道路として重要な路線であり、緊急時等の迂回路としても活用できることから早急な道路改良が課題となっている。道路管理者は、岐阜県である。	生活道路の安定	国道の整備	・418号線の改良(5.4km) 国道418号線は笠置ダムより下流が通行止めとなっている。バイパスとして山頂ルートを整備しているが、八百津町境から恵那市側のルート確定と道路整備が急がれる。 道路整備することによりリニア岐阜県駅へのアクセス道路としての役割を担う。
飯地	生活道路の確保	地域の生活道路として重要な路線であり、また雨量規制により通行止めとなることから生活等に支障をきたしている。早急な道路整備を求める。道路管理者は、岐阜県である。	生活道路の安定	県道の整備	・県道恵那八百津線の改良 飯地町の重要な幹線道路であり、リニア岐阜県駅への重要なアクセス道路であることから早急なルート決定と道路整備が必要。 道路整備することによりリニア岐阜県駅へのアクセス道路としての役割を担う。
飯地		地域の生活道路として重要な路線であり、緊急時の迂回路としても活用できることから早急な道路改良、新設が課題となっている。	生活道路が確保されることにより、安心安全な生活が確保される。	市道の改良	・飯中線の勢井後橋の架替、二車線化 中野方川に架かっている勢井後橋が集中豪雨により冠水し、通行止めとなったことがある。また、老朽化していることから橋の架け替え及び中野方から飯地までの二車線化。緊急時の迂回路として。
飯地				市道の開設	・裏洞線(約800m) 飯中線からR418(丸山バイパス)へのバイパスとして整備。災害時等の迂回路、子供たちが安全に通学できる通学路の確保。
飯地				市道の開設	・市道58号線(約200m) ・市道68号線(約2,000m) ・市道55号線(約500m) 地域の生活道路であり、幅員が狭く交通安全の面から早期の改良を要す。
飯地	林道の整備	森林資源の有効活用・保安全管理が現状で進入する道路が無いため困難である。資源の有効活用等を図るため林道の整備が急がれる。大沢林道と湫林道の接続をすることにより大沢川流域の森林資源の有効活用が可能となる。	林産物の搬出、保安全管理が容易となり、労力が軽減される。	林道の整備	・大沢線の舗装 ・湫線の開設 大沢線は道路勾配が急であるため材木の搬出に困難が予想されることから道路舗装と併せて、大沢線と湫線を繋ぐことで、大沢川流域の森林の保安全管理、資源の有効活用が容易となる。また、労力の軽減が予想できる。
飯地	テント村施設の更新	飯地高原テント村の施設は昭和50年代から60年代に建設されていて老朽化が著しく、使用できない施設があるため建替え時期にきている。	現在の年間利用客は600人程度であるが、この施設整備等により利用客が増えることが想定でき、また、地元農産物や加工品などの販売促進が期待される。	テント村の再整備	・管理棟2階建て(1棟) ・バンガロー(10棟) 昭和50年代から60年代に建設した管理棟等が老朽化している。また、バンガローについては使用できない物も有り建替え時期にきている。
飯地	NPO、地縁団体の設立	地域の活性化を行いたい、活性化等を実施する手法等が分からないため、アドバイザー等の活用によりNPO等を立ち上げ地域活性化に繋げる。	NPO等を立ち上げ、地域の活性化が推進される。	アドバイザー派遣	・アドバイザー派遣 NPO・地縁団体等を立ち上げるノウハウの取得、および活性化等の手法を学び地域で実践し活動する。
飯地	公園の整備	町内に子供たちが集まって安心して遊べる公園が無い、水に親しみ安心して遊べる公園(親水公園+ポケットパーク)の設置。	安心して水に親しめる場が確保できる。	公園の整備	・親水公園、ポケットパークを併設して建設 地域内に子供たちが安全に遊べる公園が無い。安全に遊べ、水に親しめる公園の整備。
飯地	福祉施設の整備	高齢化が進み老人福祉施設等の利用が増加することが予想されることから、民間活力による老人施設の整備	高齢者の方が安心して利用できる施設が確保される。	老人福祉施設の誘致	・老人福祉施設の建設 高齢化に伴い老人福祉施設の需要が見込まれることから、自然豊かで静かなこの地に福祉施設を誘致する。 施設を誘致することで、雇用の場ができる。
飯地	エコ発電	町内の中小河川でミニ水力発電施設を整備、また遊休農地を利用し、太陽光発電施設を整備し、地域の防犯灯などの電源に利用。河川が一級河川及び砂防河川であるため水利権等の許可が必要。事業実施・管理をどこが行うかが問題。		エコ発電の導入	・ミニ水力発電の整備 ・太陽光発電の整備 中小河川を利用し、ミニ水力発電と里山や遊休農地を活用した太陽光発電を整備し、地域の防犯灯などの電力として利用。

市道の局部改良
 飯中線の整備
 勢井後橋の整備
 川向林道の整備
 市道笠置町37号線の整備
 笠置山林道の整備
 笠置山林道と寺洞林道の整備
 寺田・石山線の整備
 市道笠置線の整備
 飯地前平観音周辺（岩波奥屋線）整備

県道・国道の道路改良促進
 ・県道中野方七宗線（402）、県道毛呂窪姫栗線（409）、県道恵那八百津線（412）の改良要望の改良要望
 ・県道恵那白川線（68）（不動滝～加須里）バイパスの整備要望

・老人介護支援施設の建設誘致

地域資源のインターネット発信
 ・ホームページの作成（3町の観光等）

3町統一の行事予定表の作成

グリーンピア跡地の有効活用
 ・栗園観光に伴う公衆トイレの設置
 ・栗園振興に対する3町連携
 ・企業、研究所の誘致

天然記念物等の活用
 ・地域の観光資源をブラッシュアップする。
 ・観光マップの作成（現在作成中の3町合同の観光マップに反映）
 ・天然記念物などの周辺整備・看板設置

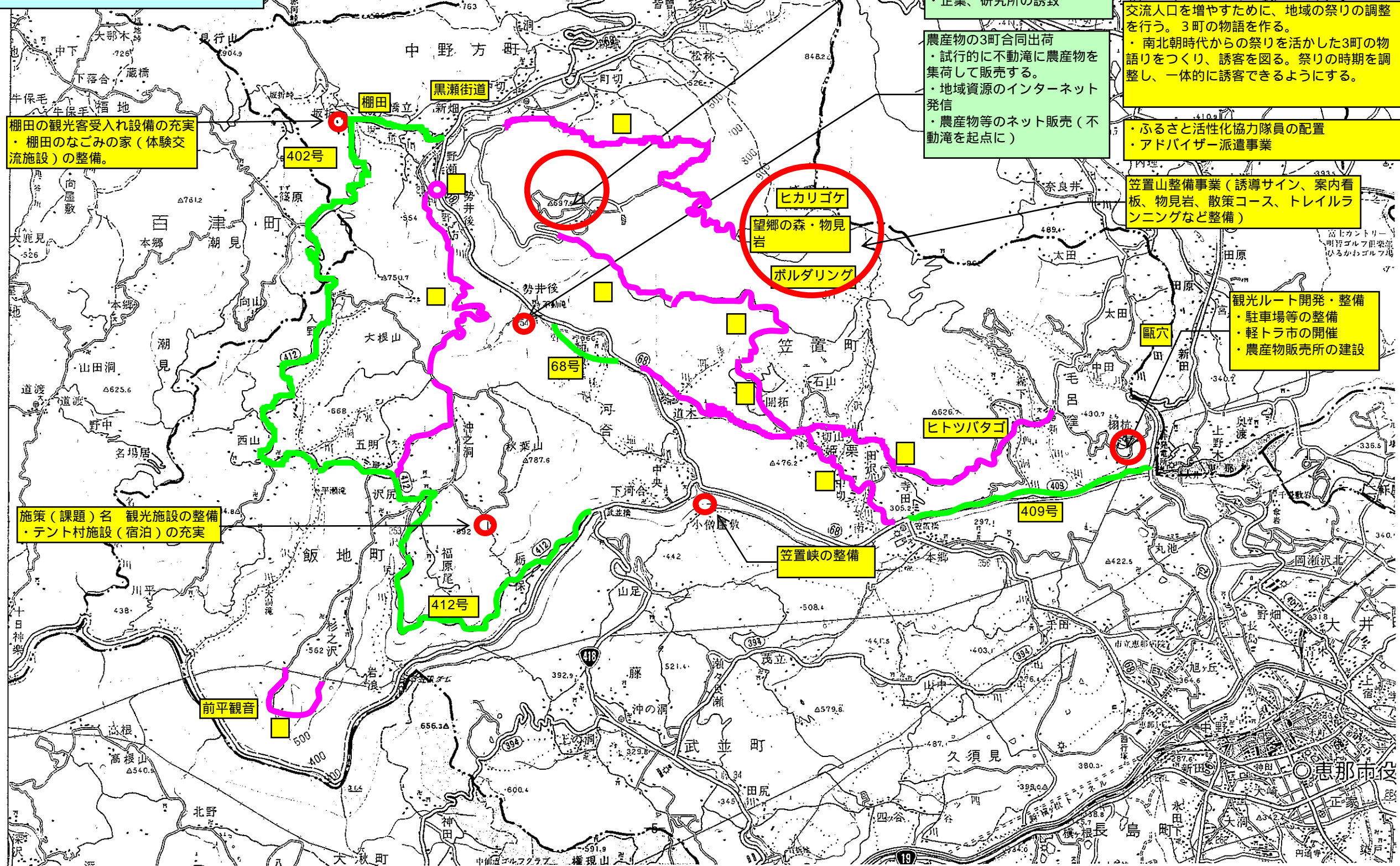
農産物の3町合同出荷
 ・試行的に不動滝に農産物を集荷して販売する。
 ・地域資源のインターネット発信
 ・農産物等のネット販売（不動滝を起点に）

交流人口を増やすために、地域の祭りの調整を行う。3町の物語を作る。
 ・南北朝時代からの祭りを活かした3町の物語りをつくり、誘客を図る。祭りの時期を調整し、一体的に誘客できるようにする。

・ふるさと活性化協力隊員の配置
 ・アドバイザー派遣事業

笠置山整備事業（誘導サイン、案内看板、物見岩、散策コース、トレイルランニングなど整備）

観光ルート開発・整備
 ・駐車場等の整備
 ・軽トラ市の開催
 ・農産物販売所の建設



棚田の観光客受け入れ設備の充実
 ・棚田のなごみの家（体験交流施設）の整備。

施策（課題）名 観光施設の整備
 ・テント村施設（宿泊）の充実